

歴史博物館・幾久公園に
求められる役割、機能について

■ H15年リニューアル時の歴史博物館の性格や機能

◇設置目的

福井県の歴史にかかわる諸資料を調査研究、収集(保管・保存・補修を含む)、展示し、併せてこれらに関する情報提供、普及活動を行うことにより、県民の郷土に対する知識と理解を深め、文化の継承と発展に資することを目的とする。

◇性格および機能

人文系歴史博物館であると同時に、県内博物館の中核施設としての性格、機能を併せ持つものとする。

- ①人文系歴史博物館としては、以下の機能を発揮する
- 福井県の歴史や文化に関わる総合的な調査研究をすすめ、資料を収集(保管・保存・補修を含む)する。
 - 福井県の歴史や文化に関わる情報を発信し、福井県民のアイデンティティ形成に寄与する。
 - 生涯学習支援の一機関として、利用者が自ら学ぶことのできる環境(場と機会)を提供する。

- ②県内博物館の中核施設としては、以下のような機能を発揮する。
- 県内における県立の博物館施設間の連携をはかる基地となる。
 - 県内における市町村あるいは民間の博物館・資料館等との連携の拠点となる。
 - 博物館にかかわる情報・連絡網の総合窓口(集約)的な役割を果たす。

◇運営の基本理念(※要約)

県民が「歴史・文化遺産に親しむ憩いと学びの空間」を提供し、地域社会の過去と現在の理解と未来への思索を深める創造の拠点を目指します。従来の固定的なイメージを払拭し、常に変化をとげる新しいタイプの地域博物館を目指します。

運営においては、県民のニーズや評価を捉え、調査研究・資料収集・展示・普及事業において県民の積極的な参加を促す「開かれた博物館」を理想とします。柔軟な対応と質の高いサービスを提供し、広く事業評価を求めます。

また、中・長期的な調査研究・資料収集の成果を展示等に還元し、利用者の新たな関心やニーズを喚起します。特に展示事業では最新成果を反映するシステムを導入します。普及事業では社会情勢の変化に対応した多様な取り組みを行い、リピーター確保のため、学校教育との連携を重視し、利用促進を図ります。

「福井県立歴史博物館 基本構想・計画検討報告書」より H11.3

■ 歴史博物館、幾久公園に求められる役割と機能

(1) 収集・保存・レスキュー・調査研究

(2) 展示・学び

(3) 地域協働・集い(一体化)・交流・休息・散歩・運動・遊び

(1) 収集・保存・レスキュー・調査研究

①ヒアリングの結果

■専門家の意見(歴史関係団体)

- ・ 若狭歴史博物館や市町文化施設との役割分担を明確化
- ・ 各市町の歴史の個性を常設展に反映し、県博を「福井の歴史を知る起点」に
- ・ **歴史系中核館**としての誇りを持ち文化的ステータスを示すべき
- ・ オープン収蔵庫は継続・充実を希望

■専門家意見(県内博物館施設)

- ・ 無回答除く32施設の約8割が収蔵量80%超。約4割が100%超
- ・ **県内全体で共有する収蔵庫**があるとありがたい
- ・ 収蔵庫に市町が受け入れにくい物(サイズが大きい、非常に脆弱等)の保護に努めてほしい(できるだけ大きいものを造ってもらいたい)
- ・ **県の中核博物館として、共同調査研究ができるような仕組みづくりをお願いしたい**
- ・ 文化財保存と活用の行政全体での人員配置や施設運営を考えてほしい(文化財を未来へ伝えていくことの大切さを広く示してほしい)

②委員会のご意見

■第1回委員会

- ・ 収蔵庫の本来の役割を高めることは賛成。非常に価値のある文化財を保存できる環境は大事
- ・ 水害のリスクを考えると、収蔵庫の増床も含め、**地下の収蔵庫を地上にあげる**ことも考えたほうがいい
- ・ 20年後、30年後を見据え、**収蔵庫にどこまでの機能、面積、収蔵量がほしいかバランス**が必要だと思う

■第2回委員会

- ・ 高度高齢化社会になり、先祖の資料を継承する年齢が高まり、資料の散逸が起こりやすい。**歴博には受け皿としての役割を一番重視**すべき
- ・ **多様化した博物館の機能を果たすには、現状の人員では困難**

③アンケートの結果

■**Q8歴史博物館に期待する役割や機能**では、「地域の歴史や文化の発信」(59.4%)が最も多く、県内各地域の歴史を知りたい多くの人が調査研究に期待

■**Q10<文化財レスキュー>**を「大切だと思う」人は、94.3%文化財を守ることの重要性が認識されている

役割

県内地域の宝(文化財)を守り活かす場

機能

福井県の歴史や文化に関わる資料を収集(保管・保存・補修を含む)し、総合的な調査研究を進める

- ◆ 県内全域の文化財の収集・保存を継続し、気候変動や少子高齢化などの社会状況に対応したレスキューについて、市町とともに検討を行う。そのため、収蔵庫の地上階化・増築が必要。他館との共同収蔵庫という考え方も検討
- ◆ 調査研究については、県内の博物館や民間とより密接に連携して、県内の総合的な調査研究体制を構築

(2) 展示・学び

①ヒアリングの結果

■ 県民一般(小中学生、子育て親子、ハンディキャップを持つ方々等)

- ・ **さわることができる展示、音が出たり、動く展示**など、五感を通じて、子どもが興味を持ち、学ぶことができる展示手法が重要
- ・ 「町中を歩けるVR体験」など、デジタル技術を用いた学びを希望
- ・ 「昭和の生活」「昔の家」「遊び」など、生活文化への興味が強い
- ・ 歴史展示や再現模型におけるジェンダー表現の偏り等、ジェンダー視点を反映した展示と空間設計を希望
- ・ **遊びながら学べるよう**に博物館の概念を変えることで、**子どもが声を出したり、会話しながら見学できる場**

■ 専門家意見(サポーターズクラブ、歴史関係団体、県内博物館施設、インクルーシブ専門家)

- ・ **昭和だけでなく平成の暮らし展示も追加し、家族で楽しめる場に**
- ・ できるだけ**いろんな感覚に働きかける展示**があると良い。「見る」展示がほとんどだが、「聴く」「触る」「嗅ぐ」「味わう」はどうだろうか
- ・ 自分のルーツや身近な場所が歴史と結びつくと感動し、興味が高まる傾向あり。**日常的に歴史を感じられる仕掛けが重要**
- ・ **テーマや観光に特化するのではなく、総合博物館として、福井の人々の歴史の積み重ねを堂々と主張すべき**
- ・ **各市町の歴史の個性を常設展に反映し、県博を「福井の歴史を知る起点」に**
- ・ 市街地中心部にあり、交通利便性も高いため、県内でも広い世代の利用が期待できるため、**福井の文化レベルの底上げにつながる間口の広い活動**を希望
- ・ 考古資料の活用及び教育普及の**拠点として大いに期待**
- ・ **オープン収蔵庫や昭和の暮らし展示は継続・充実を希望**

②委員会のご意見

■ 第1回委員会

- ・ 一筆書き動線で、テーマ性を持たせ時代の流れを体感できるとよい
- ・ **人気のあるトピックゾーンに行くまでにいろいろ見て体験できるようなストーリー**になると、他の展示も生きる
- ・ **オープン収蔵庫は素晴らしい考え**であり、収蔵庫の物量の見せ方が重要

■ 第2回委員会

- ・ **人気の昭和のコーナーを1階の無料ゾーンに持ってきて**、子供が遊べるようにするのもいいのではないか
- ・ 無料空間をエントランスギャラリーまで広げて歴史や文化に触れ、2階の有料空間でさらに学べるような形になるといいと思う
- ・ 学芸員や市民と協働しながら、**中高生向けの教育プログラムと一体になった展示、ワークショップ、体験型**といったことを盛んに行っていくことが求められている
- ・ 子供たちに、**文化財の保護を含めてオープンに展示**していくことは大事

(2) 展示・学び

③アンケートの結果

■〈Q7:施設や運営で改善・付加してほしいところ〉では、全体、年に数回以上、年1回未満いずれも「体験・体感型展示」が最も高くなっている

■〈Q8:期待する役割や機能〉では、全体、年1回未満、未利用では「地域の歴史や文化の発信」「子どもや若者の学びの場になる」「展示の充実」の順となっている



役割

県民の学びと探究の場(アイデンティティ、シビックプライドの形成)

機能

福井の歴史を総観するとともに、本物の質・量を感じ、博物館の舞台裏もわかる展示や、体験・遊びを通じて、多様な県民の知的好奇心を刺激し、学びと探究を継続的に支援する

- ◆福井の時の流れを感じ、県内全域の地域の特徴が分かる展示への改良
- ◆オープン収蔵庫の拡充を含めて、多種多様な文化財を、量感あふれる展示によって、豊かな文化遺産を公開
- ◆文化財の整理・クリーニング・レスキュー・保存などの博物館の裏側を可視化する展示を充実
- ◆興味関心をひき分かりやすくするために、五感を刺激する展示、
教育プログラムと一体となった展示や体験、ワークショップを、デジタル技術も活用しながら追加・拡充する
- ◆「昭和のくらし」を拡充させ、平成の暮らし展示も追加し、家族の各世代が楽しめる場とする

(3) 地域協働・集い（一体化）・交流・休息・散歩・運動・遊び

①ヒアリングの結果

■県民一般

- ・「昔の遊具」「昔の遊び場」「カンケリ」など、レトロ体験、「キャンプ」「水遊び」「どんぐりで何か作る」など、自然と触れ合う活動を希望
- ・雨でも遊べる遊び場、親もくつろげるカフェやベンチ、軽食コーナー、清潔なトイレ、授乳・おむつ替え設備、年齢別の遊具を希望
- ・博物館と公園を自由に行き来できる複数のアプローチを希望
- ・多目的グラウンド(トラック、芝生)、テニスコートは活発に利用されており、存続を希望
- ・緑豊かな環境は素晴らしい。さらに日除けとなる休憩所等があると利便性は増す
- ・博物館を含むエリア全体を緑の下を周遊できる通路があると素晴らしい
- ・トイレは屋外のため、虫、匂い、暗さ等で課題
- ・駐車場は狭く、大型バスの停車も困難で、拡大が必要

■専門家意見(サポーターズクラブ、クリエイター協会、ウェルビーイング、インクルーシブ、ランドスケープデザイン専門家)

- ・趣味や価値観を共有できる場が欲しい
- ・コレクターの持ち寄り展示や貸しスペースを設け、個人の所蔵品を活かす仕組みを
- ・昔遊び(竹とんぼ、土笛作り)体験などの体験型イベントを継続
- ・複数の活動が同時に行える交流スペース(余白)があると良い
- ・学芸員とは別の立場で作品と人をつなぐ役割を担う人がいると、足を運ぶ人もいるのではない
- ・ゆったりとした時間を過ごせる空間や場所があると良い。用がなくても時間が過ごせる場所があると良い
- ・公園から博物館の中の様子が見れる等、博物館と公園の間に何か設けて、グラデーションを楽しみながらお互いに行き来できる仕掛けがあると良い
- ・来るとリラックスできるところ、健康が増進できるところになると良い
- ・カフェやレストランがあると滞在時間が増えるので、居場所としての居心地の良さが出来る
- ・公園全体で「感覚分解」と「感覚統合」を考えたら面白そう
- ・最低、端から端まで見通せる通りを数カ所設ければもう少し入り易い環境になるし、犯罪は減ると思う

③アンケートの結果

- 〈Q5:魅力[よいところ]〉〈Q7:[今後、期待すること]〉では、緑が多く、ゆっくり落ち着けることを重視している方が多い。
次いで子供との遊び(大型の遊具)、トラック等の走行環境を求めている

- アンケートのターゲット層別分析では、年1回～数回利用のライト層が、博物館と公園の両方を利用している場合が多い

(3) 地域協働・集い（一体化）・交流・休息・散歩・運動・遊び

②委員会のご意見

■第1回委員会

- ・ **インパクトのあるものにより公園から館まで来られるようなダイナミックなもの**ができると、館と公園のつながりが高まる
- ・ **博物館と公園をつなぐ仕掛け**をオープン展示の感じで公園の中に作っていく必要があると思う
- ・ シンボルゾーンの水施設、花壇がバリアになっており、つながりの視点から検討が必要
- ・ **博物館の南側の壁**が閉鎖的であり、**オープンな機能や空間**にしていくべきことで公園との一体性が生まれる
- ・ 子どもの遊び場は、(親が)見守りやすいシンボルゾーンの周りにあったほうが良い

■第2回委員会

- ・ 幾久公園は福井のセントラルパークで、**周りの緑で喧騒から遮断されて**、中に入ると空気や世界が変わる**素晴らしい空間**、この雰囲気を残してほしい
- ・ **エントランス空間周辺だけでも中の様子が見えるように、植栽環境とか入口の間口、動線を見直して**はどうか
- ・ **博物館のカフェの公園側をガラス張りにし、テラス席から出入りできるようにして、公園の借景を見ながらカフェで休む利用**もいいのではないか
- ・ 中でも外でもワークショップを行い、**子どもたちは外で遊んで中で学習する**という使い方が、歴史博物館、幾久公園でもできるのではないか
- ・ 公園内の休憩スペース等の人が滞留する空間に、博物館を紹介する機能や仕掛けがあるといいのではないか
- ・ 落雷の避難場所にもなるカフェ機能を備えた、かなり大きな休憩スペースをつくり、一体化を図るのも1つの案
- ・ 一体化を無理にしないで、年に1~2回イベントをして、古代体験や歴史体験のブースをいくつか出すというやり方もあるのではないか

役割

地域との交流・心身の健康・安らぎの場

機能

誰もが自然・歴史文化に触れながら、身体を動かし、心身の安らぎを育むことができ、気軽に立ち寄れるみんなの居場所

- ◆ 博物館の中の様子が見られる等、博物館と公園の間のつながりを楽しみながらお互いを行き来できる仕掛けを検討
- ◆ 仕掛けの中には、レトロ体験や自然体験、大学生や小中高生との交流等、複数の活動が同時に行える交流スペースなどを検討
- ◆ 植栽環境を重視しつつ、端から端まで見通せる通りを設けるなど、安心できる空間にも配慮する
- ◆ 多目的グラウンド(トラック、芝生)、テニスコートは適切な維持補修を行ったうえで継続させる
- ◆ 雨でも遊べてインクルーシブな遊び場、安らげる休息環境(日除け、ベンチ、トイレ等)、駐車場の改善

役割	機能
<p>①県内地域の宝（文化財）を守り活かす場</p>	<p>福井県の歴史や文化に関わる資料を収集（保管・保存・補修を含む）し、総合的な調査研究を進める</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆県内全域の文化財の収集、保存を継続し、気候変動や少子高齢化などの社会状況に対応したレスキューを新たに行う。そのため、収蔵庫の地上階化・増築が必要。他館との共同収蔵庫という考え方も検討 ◆調査研究については、県内の博物館や民間とより密接に連携して、県内の総合的な調査研究体制を構築
<p>②県民の学びと探究の場 （アイデンティティ、シビックプライドの形成）</p>	<p>福井の歴史を総観し、本物の質・量を感じ、博物館の舞台裏もわかる展示や、体験・遊びを通じて、多様な県民の知的好奇心を刺激し、学びと探究を継続的に支援する</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆福井の時の流れを感じ、県内全域の地域の特徴が分かる展示への改良 ◆オープン収蔵庫の拡充を含めて、多種多様な文化財を、量感あふれる展示によって、豊かな文化遺産を公開 ◆文化財の整理・クリーニング・レスキュー・保存などの博物館の裏側を可視化する展示を充実 ◆興味関心をひき分けやすくするために、五感を刺激する展示、教育プログラムと一体となった展示や体験、ワークショップを、デジタル技術も活用しながら追加・拡充する ◆「昭和の暮らし」を拡充させて平成の暮らし展示も追加。家族の各世代が楽しめる場とする
<p>③地域との交流・心身の健康・安らぎの場</p>	<p>誰もが自然・歴史文化に触れながら、身体を動かし、心身の安らぎを育むことができ、気軽に立ち寄れるみんなの居場所を提供する</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆博物館の中の様子が見られる等、博物館と公園の間のつながりを楽しみながらお互いを行き来できる仕掛けを検討 ◆仕掛けの中には、レトロ体験や自然体験、大学生や小中高生との交流等、複数の活動が同時に行える交流スペースなどを検討 ◆植栽環境を重視しつつ、端から端まで見通せる通りを設けるなど、安心できる空間にも配慮 ◆多目的グラウンド（トラック、芝生）、テニスコートは適切な維持補修を行ったうえで継続 ◆雨でも遊べてインクルーシブな遊び場、安らげる休息環境（日除け、ベンチ、トイレ等）、駐車場の改善